

松江市の園医数に関する研究

き くに ひかる わた り ひろし
貴 谷 光¹⁾ 渡 利 寛²⁾
あし ざわ たか お あさ の ひろ お
芦 沢 隆 夫³⁾ 浅 野 博 雄⁴⁾

キーワード：未就学児，園医，幼稚園，保育所，こども園

要 旨

島根県松江市における未就学児を対象とした幼稚園，保育所，こども園等で園医を務めている医師数について調査した。調査した112の施設では約7,600名が在籍していた。医師の内訳は内科医27名，小児科医19名，眼科医・耳鼻科医各々9名で，大半を開業医が占めていた。近年松江市では出生数が減少しており，その影響が医師数にも反映される可能性があるため今後の動向に注目する必要がある。

はじめに

松江市内には未就学児童を対象とした様々な教育・福祉施設が存在する。児童を常に預かる施設もあれば，一時預かりのみを対象とする施設もある。これらの施設では医師が園医として児童の健康管理に携わっているが，その実態についての報告はない。今回，常設的に児童を預かっている施設における園医数等について調査を行ったので報告する。なお，数字は令和4年4月現在のものであるが，一部に6～8月に調査した数字も含まれている。

方 法

松江市内には121の施設が存在する。内訳は公立幼稚園19，私立国立幼稚園2，公立保育所12，私立保育所50，公立幼保園4，私立こども園16，認可外保育施設18（企業主導型保育施設等）である。この内，公立幼稚園，私立国立幼稚園，公立保育所，私立保育所，公立幼保園，私立こども園と認可外保育施設のうちで常時預かりを実施している112施設を調査対象とした。

松江市子育て政策課から提供を受けた資料を元に，各施設に電話して園医についての情報提供を受けた。園医名，在籍児童数等について聞き取り調査を行った。

結 果

市立幼稚園は19園あり，在籍児童数は360名

Hikaru KITANI, et al.

1)きたに内科クリニック

2)渡利小児科内科医院

3)芦沢医院

4)浅野小児科医院

連絡先：〒690-0021 松江市矢田町 478-5

きたに内科クリニック

表1 松江市の教育及び認可保育施設の園医数

認可施設	種別	設立母体	設置数	児童数	園医数	内科医	小児科医	眼科医	耳鼻科医	開業医
幼稚園	公立		19	360	34	10	6	9	9	31
	私立		1	71	1	0	1	0	0	1
	国立		1	53	3	1	0	1	1	3
保育所	公立		12	814	8	5	3	0	0	7
	私立		50	4191	24	12	12	0	0	22
幼保園	公立		4	642	12	3	1	4	4	12
こども園	私立		16	1316	9	7	2	0	0	8
合計			103	7447						

（平均18.9名）であった。園医は34名で、内科医10名、小児科医6名、眼科医9名、耳鼻科医9名であった。勤務医3名（小児科1名、耳鼻科医2名）、開業医31名であった。

市内には私立幼稚園1園があり在籍児童数は71名、国立幼稚園が1園あり在籍児童数は53名であった。私立幼稚園園医は小児科医1名、国立幼稚園の園医は内科医、眼科医、耳鼻科医各々1名で全員開業医であった。（表1）

市内の公立保育所は12園あり、在籍児童数は814名（平均67.8名）であった。園医は8名で、内訳は内科医5名、小児科医3名であった。勤務医1名、開業医7名であった。

松江市内の私立保育所は50園存在し、在籍児童数は4,191名（平均83.8名）であった。園医は内科・小児科系医師のみで24名の医師が園医を務めていた。内科医12名、小児科医12名で、内科医と

小児科医が同数であった。勤務医1名、産業医1名、開業医22名で、大半が開業医で占められていた。

松江市内には市立の幼保園と私立のこども園が存在するが、今回の検討においてはほぼ同等の組織と考えられる。市内の幼保園は4園あり、在籍児童数は642名（平均160.5名）であった。園医は12名で、内科医3名、小児科医1名、眼科医4名、耳鼻科医4名であった。全員が開業医であった。

私立のこども園は16あり、在籍児童数は1,316名（平均82.3名）であった。園医は9名で、内科医7名、小児科医2名であった。勤務医1名、開業医8名であった。

所謂認可外保育所は18あり、そのうち9施設が一時預かりを対象としていた。常時預かりは、企業主導型保育施設5園、企業内保育施設4園であった。

表2 松江市の認可外保育施設の園医数

認可外保育施設	園医数	児童数	園医	内科	小児科
院内保育所	4	64	4	0	4
常設	5	114	4	2	2
一時預かり	9	不定	0	0	0
合計			8	2	6

企業主導型保育施設5園では、在籍児童数は114名(平均22.8名)であった。園医は4名で、内科医2名、小児科医2名で全員開業医であった。(表2)

企業内保育施設は4園あり、在籍児童数は64名(平均16名)であった。これらはいずれも病院内に開設されており、病院小児科医が交代で園医としての役割を果たしていた。なお、認可外保育施設の数字は令和4年6~8月のものである。

医師側からみると、延べ160名が園医として活動していた。内訳は内科医延べ60名、以下同様に小児科医52名、眼科医24名、耳鼻科医24名であった。複数の園を兼務する医師もあり、実数としては内科医27名、小児科医19名、眼科医、耳鼻科医各々9名であった。(表3)

内科医が担当する施設は1~6カ所で、勤務医は1名、開業医26名であった。小児科医が担当する施設は1~7カ所で、勤務医は7名、開業医12名であった。眼科医が担当する施設は1~4カ所で、全員が開業医の9名であった。耳鼻科医が担当する施設は1~5カ所で、勤務医は2名、開業医7名であった。全体を通してみると、開業医が約84パーセントで園医の大半を占めていた。

考 察

未就学児童を対象とした施設は、教育施設である幼稚園、福祉施設である保育所、両者のハイブ

リッド版とも言うべきこども園等様々な組織が存在し、また所轄の官庁も異なることが知られている。松江市には子育て政策課があり、これらの未就学児童に対して包括的に対応している。

幼稚園、保育所、こども園等には医師が園医として健康管理に関わっているが、所轄官庁が複数にまたがっていることなどから、その実態を把握することは必ずしも容易ではない。今回、筆者らは松江市子育て政策課の協力を得て、これらの園医の実数について調査を行った。

調査した112施設の在籍児童数は7,625名で、延べ160名の医師が園医として対応していた。一人の医師が複数の園医を務めている場合も多く、実数としては内科医27名、小児科医19名、眼科医、耳鼻科医各々9名であった。眼科・耳鼻科は幼稚園・幼保園のみの配置であった。

内科医27名は1~6カ所を受け持っていたが、最高でも合計373名であり十分に一人に対応できる範囲と考えられた。小児科医は19名で1~7施設を受け持っていたが、最大で408名であり同様に一人で十分に対応できると考えられた。眼科医は1~4施設を受け持ち、最大で244名、耳鼻科医は1~5施設を受け持ち、最大で158名を担当していた。耳鼻科医では病院勤務の医師が2名参加していること、小学校以上の学校医の負担が大きいことを考慮すると、負担感は必ずしも少ないと推察された。

表3 松江市の教育及び保育施設における園医数

	延べ数	実数	開業医	最大担当	最大人数
内科	60	27	26	7	373
小児科	52	19	12	8	408
眼科	24	9	9	4	244
耳鼻科	24	9	7	5	158
合計	160	64	54		

表4 松江市における近年の出生数の推移

出生数						
年次	H28	H29	H30	R1	R2	R3
実数	1705	1630	1589	1545	1492	1473

現時点で見ると、園医は数的には十分確保されていると考えられる。松江市の出生数をみると直近6年でかなりの減少傾向となっており、これらの状況を受けて近い将来には幼稚園、保育所等の統廃合の議論が予想される。中でも幼稚園児数の減少は著しく、それに伴って園医の減少も避けられないと推察される。しかし児童数が減少すればそれに対応して小児科医も減少する可能性もあり、現在園医の大半を開業医に依存している現状を考えると、開業医数の動向も気になるところである。（表4）

開業医が少数である眼科医と耳鼻科医に関して

は、眼科医会及び耳鼻科医会内部で個人の負担を平均化するような調整が行われている。一方、内科医・小児科医に関してはそのような調整の仕組みはない。そのため、内科医・小児科医の負担はかなり大きなばらつきがある。小学校以上の公立学校では既に地域・診療科によっては学校医の確保が難しくなっているケースもあり、今後の児童数、医師数がどう変化していくかが注目される。¹⁾

利益相反

当研究において利益相反は特にありません。

文 献

- 1) 貴谷光他 島根県の学校医数に関する研究 島根医学 38-40. 39. 2019.